

BASIC: パハイと学術の統合と関連づけ

ケリー・スヌック

今日、パハイの大学生たちは、パハイの教えや考えを大学や仕事の場に関連づける必要性に迫られている。多くの若者は、最初大学に入る時に、大学生活の忙しさと世俗的な雰囲気飲み込まれてしまう傾向にある。「大業はパハイの学者をもっと必要としています。パハイを信じ、献身的で、人々にそれを伝えたいと願うだけでなく、パハイの教えと意義について深い理解があり、世界の人々の現在の思想や問題に、その信条を関連することのできるパハイの学者がこの大業にはもっと必要です...」¹という条件を満たす若者が、これからますます必要とされる。

学問の分野によっては、パハイの教えを応用しやすいものとそうでないものとに分かれる。たとえば、「国際関係」などは前者にあたり、工学などは後者にあたると言えよう。BASIC アプローチの核は、専攻分野が何であれ、大学生が教育ツールにアクセスできるようにすることにある。ある学生には、すでに行っていることを体系化することを意味するかもしれないし、ある学生には、パハイの考えを自分の専攻分野に統合させる事を意味するかもしれない。それは、北米の大学ならどこにでもあり、independent study(自主研究)というオプションを使うことにより、可能となる。まず、大学の教官の中から、関連する教官を選び、指導教員になってもらう。それから、自主研究は、インターネット上のBASICの学習資料とパハイの指導教員を通して進める。学生は、自分の単位を取得だけでなく、世界中で蓄積されるパハイの知識体系拡大に一役買うこともできるのである。パハイ(BASIC)指導教員の役割は、最小限(1,2度会話をするだけ)から最大限(常に関与)までありうる。同教員は、文献の検索や、重要な新しいトピックの提案や、あるいは他の専門家へのリンクなどの面で援助する。同時に、大学の指導教員とBASIC教員をあわせ、彼らの経験・洞察・提案・ガイダンスから必要なものを引き出していく。それは、芸術・工学・歴史・物理学・生物学・言語学・医学・ビジネス・数学・経済・スポーツ・コンピュータ・ジャーナリズム・人類学など多種多様な分野でありうる。実世界で活躍しているパハイの専門家たちから貴重な資源を預かるのである。また、誰でもパハイの指導員になれる。

教材

BASICの教材や資料はウェブサイトですぐ入手できる。学生と指導教員は、データベースを通して互いに検索でき、BASICのウェブサイトの資料を通して、学習のレベルや規模について話し合い、合意することができる。また、専門分野や質問、パハイの原則との関連、奉仕の機会などの情報も掲載される。このようなサイトには、次のような要素が含まれる:

- (1) 自主研究ガイドライン: パハイの学術、自主研究と批判的思考に関するテクニック、自分の学習分野とパハイの文献を関連づける方法、奉仕の機会。そして、すでに存在する学習プログラムや学術に関する編纂、提案事項、BASIC独習プログラムの進め方へのリンク。やがて、特定の分野に関するガイダンスが提供される予定である。
- (2) 文献データベース: 全ての一次的・二次的パハイ文献、関連書籍・記事・論文、その他の文献がBASICウェブサイトを通して入手できる。これらはすでに存在するデータベースや検索エンジンに基づく。BASICの学生が論文、プロジェクト、レポートなどを提出していき、パハイの学生と学者たちから得られる情報の深みと幅が増すにつれ、これらの文献の内容も拡大されていく。
- (3) 検索可能な学生データベース: 学生は所属大学・学年・専攻分野・目標などの関連情報

¹ ショーギ・エフェンディから個人の信者へあてられた手紙より、10/21/43: *Lights of Guidance*, p.515.

- をプロフィールとして提供する。こうして、互いに学生同志の検索ができる。
- (4) 専門家・指導教員のデータベース: 専門家や指導教員も同様に、自分に関する情報を提供し、検索できるようにする。また、提供できる時間なども知らせる。社会のあらゆる背景を代表するべきで、学者に限る必要はない。
 - (5) ライブ・ディスカッション・フォーラム及びアーカイブ: BASIC参加者は、学生と教員のチャットルームに参加できる。このようなフォーラムは、典型的な大学でのディスカッションを反映できるようにする。

若き学者のためのフォーラム

BASICの鍵となる要素は、BASICプロジェクトの結果をお互いに、そしてバハイ世界全体と分かち合うことである。学習内容は自分の大学の教授たちや、同じ参加者の学生たちにより審査され、バハイ出版や電子データでの発表のために提出する。また、バハイ学術研究会や地方や全国のバハイスクールでの発表を奨励されるべきである。また、バハイの外での発表も奨励されるべきである。

BASICの仕組み: 実際例

グレチェンは、ワイオミング州の小さな大学の工学専攻学生である。この大学で唯一のバハイの学生で、現在2年生であるが、なぜ自分が工学を勉強しているのかよくわからない。面白そうだったし、何よりも親が喜んだので専攻に選んだ。親は二人とも弁護士で、彼女がよく勉強しているのを見て喜んでいる。グレチェンはBASICの存在を知り、工学を専門とする多くのバハイの名を見つけたが、特に、ジョセフの背景に関心を持った。ジョセフはブルンディで仕事及びバハイのバイオニアをしている地質学者・電子工学者である。彼は衛星イメージと遠隔センサーを用いて再植林プロジェクトを指導しており、バハイの協議法に基づいた革新的なプロジェクト管理を行っている。ジョセフは、伐採区域のイメージは衛星座標と正確に一致していないので効果的な再植林につながっていない、と説明する。グレチェンは、地質物理工学部のジェンキンス教授に話をし、衛星イメージの参照の仕方を学ぶ。ジェンキンス教授とグレチェンは、独習コースを使ってこのプロジェクトを完成させることに合意する。グレチェンは、ジョセフの仕事に役立つようなイメージを提供するために研究を進める。その間、適切な範囲で、バハイのことについて、ジェンキンス教授に紹介しておく。研究結果は、ジェンキンス教授とジョセフの両方に提供し、彼女は成績A(優)をもらう。グレチェンは、毎年フロリダで開かれる社会経済開発大会でこのプロジェクトについて発表するため、ジョセフと共同で執筆する。これは、バハイの原則を工学の分野に応用した例で、大学での経験がバハイの奉仕にもつながっている。グレチェンは、遠隔センサーについて研究している他の3人のバハイ学生とも出会った。また、光学の中でもどのような専門分野に進みたいかについても刺激を受けた。また、ジョセフとグレチェンには、グレチェンの大学とアフリカの開発プロジェクトの間に関係を作ることにより、より大きなプロジェクトを開始する可能性も出てきた。

これは、BASICの仕組みを説明する例のひとつである。分野によっては、バハイの教えをもっと直接応用することもできる。要点は、柔軟性があるということで、大学での生活とバハイとしての生活をより統合していけるように手助けするのが、BASICの役割である。

国際的な参加とBASICの発展

BASICは北米の学生と専門家に限定される必要はどこにもない。むしろ、国際的な範囲での指導教員を必要とする。それにより、学生に広範囲でユニークな視点や奉仕の機会を提供できるからである。また、世界中の学生も参加できる。ただし、単位として履修できるかどうかは、所属する

大学のポリシーに依存する。BASICの資料は主に英語であるが、国際的参加者が増えるにつれ、他言語での資料も増えていくであろう。発展を支え、バハイ信教の保護と参加者のプライバシーのために、ウェブサイトに必要な下層構造を整備中である。ウェブサイトの一部　たとえば承認された文献や学生プロジェクト　のみが、一般に公開される。他方、学生や教員のデータベースは、パスワードなしにはアクセスできないようにする。BASICは、世界・国・地方のバハイ機構の指導のもとに開発されている。

トレーニング・インスティテュートとの関連

トレーニング・インスティテュートとBASICが成長するにつれ、多くの共同プロジェクトコースが開発されるであろう。たとえば、トレーニング・インスティテュートは、「真理の独立探究」におけるトレーニングを行い、学生はそれに参加しながら、BASICを実施できる。逆に、学生は、BASICを活用しながら、トレーニング・インスティテュートで使えるようなコースを開発することもできる。BASICの学生は、トレーニング・インスティテュートの目標のひとつである子供やジュニアユースの教育を行い、BASICの条件を満たしながら、若い世代への教育と奉仕にもつながる。

スケジュール

選抜された学生と教員は、2001年の秋期に、BASIC実験的プログラムに参加する。ウェブサイト(www.basicinternational.org)が開発中で、2002年の春期までに完成する予定である。実際の開始は2002年中になる。関心のある学生や教員には、2001年11月から登録を開始する。ニュースやアナウンスは2001年11月1日までにwww.basicinternational.orgで発表する。初期登録も可能で、kellysnook@yahoo.comまで連絡すればできる。